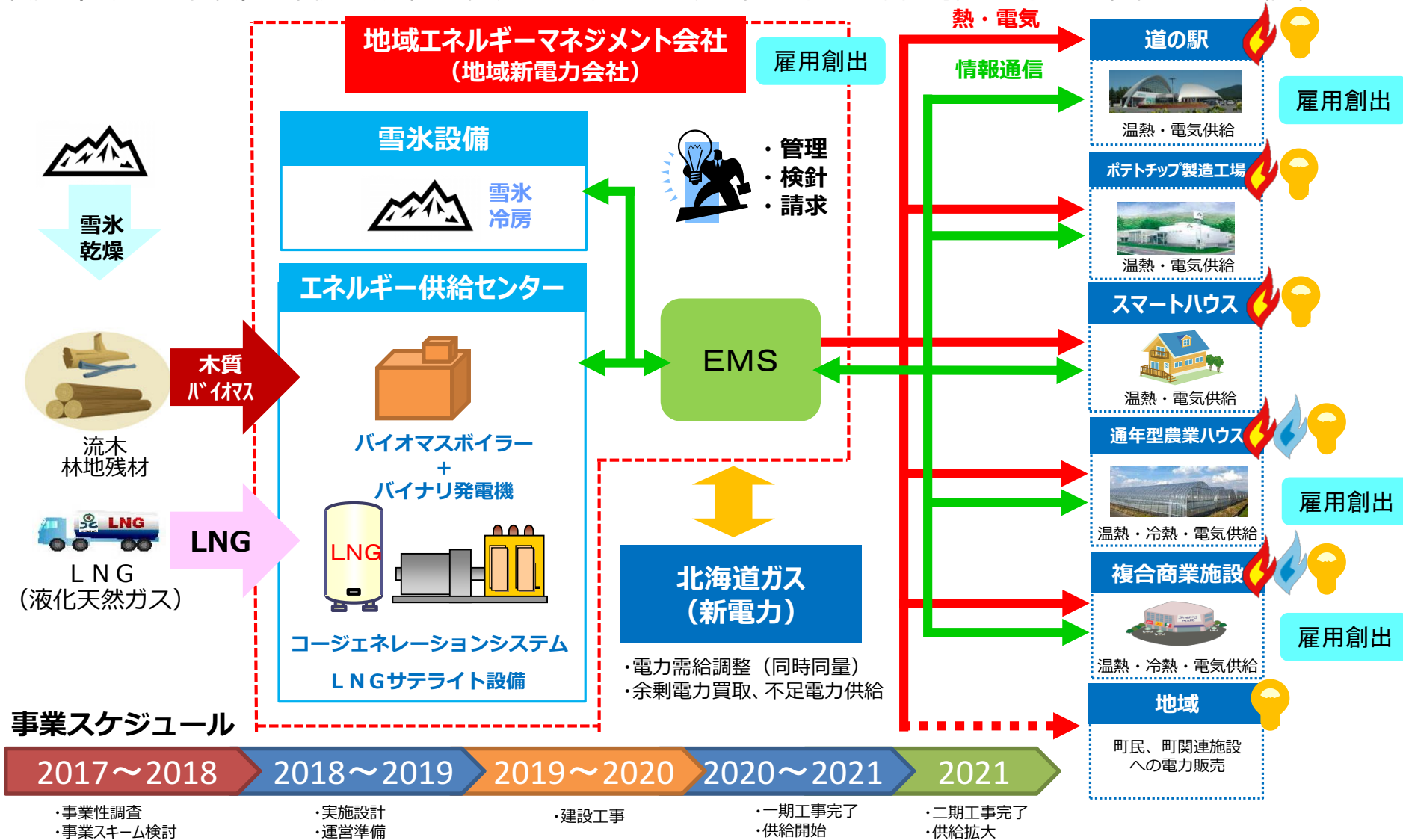


トリエネ（木質バイオマス+ LNG + 雪氷）・スマート・コンパクトタウン事業 計画概要

- 「木質バイオマス+ LNG サテライト供給+ ガスコージェネレーションシステム+ 雪氷冷熱による面的エネルギー利用」の試みにより、熱・電気エネルギーの地産地消を図り、大幅なCO2削減、災害時におけるエネルギーの安定供給、地域のPR効果など、北海道内全域への波及モデルを構築する。
- 地域エネルギーマネジメント会社を設立し、エネルギー供給・マネジメントを実施。
ITを活用し、再生可能・自然エネルギーと天然ガスの最適運用を図ると共に、エネルギー需要家と一体となった省エネ運用を進める。
- 町の機能（エネルギー需要）を集積し、効率的・経済的なエネルギー運用を行い、自立運営が可能なエネルギー供給スキームを構築する。



29年度の事業内容

1. エネルギー需要動向等調査

- ①. 道の駅及び周辺施設のエネルギー需要調査
- ②. エネルギー供給システムの検討
- ③. 課題整理・導入効果の分析

2. エネルギー事業化調査

- ①. エネルギー供給施設の運営計画
- ②. エネルギーマネジメント会社の運営計画



3. 調査結果から見えた課題

- ①. 売電収入やエネルギーの調達コストの差額による減収見込みに対する、エネルギーセンターにおける収支改善
- ②. 計画想定時からのエネルギー温水需要の減少に対する対応
- ③. 雪氷冷熱の経済的有効利用に対する対応



4. 課題等への対応、次年度の予定

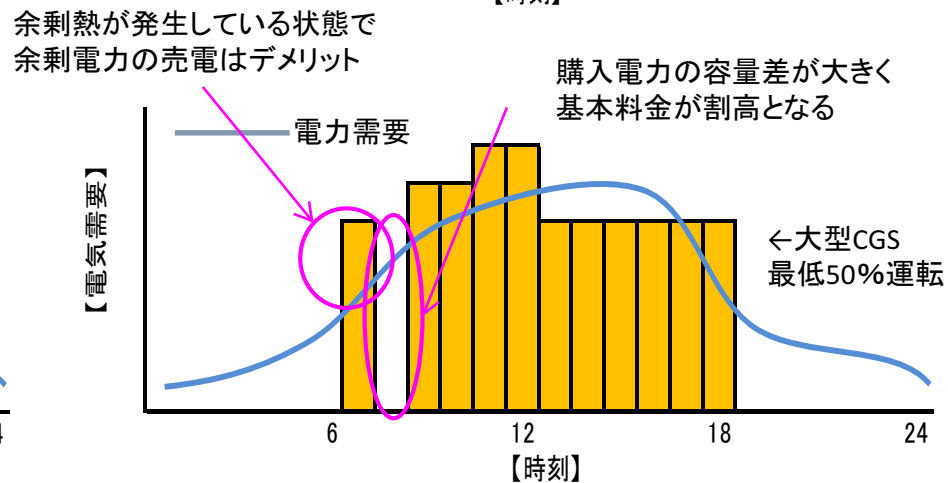
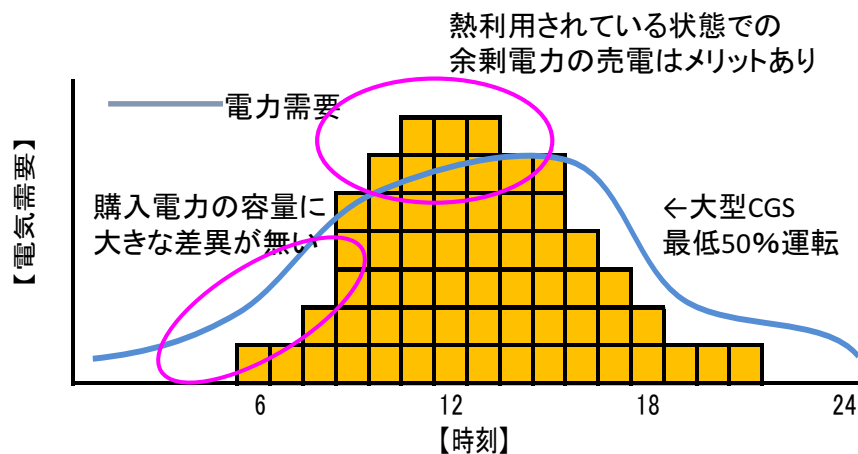
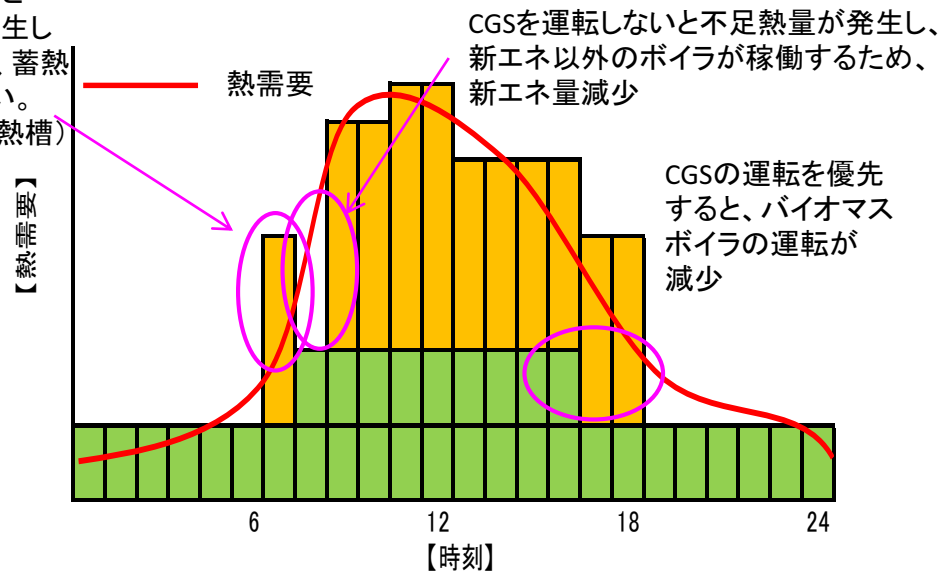
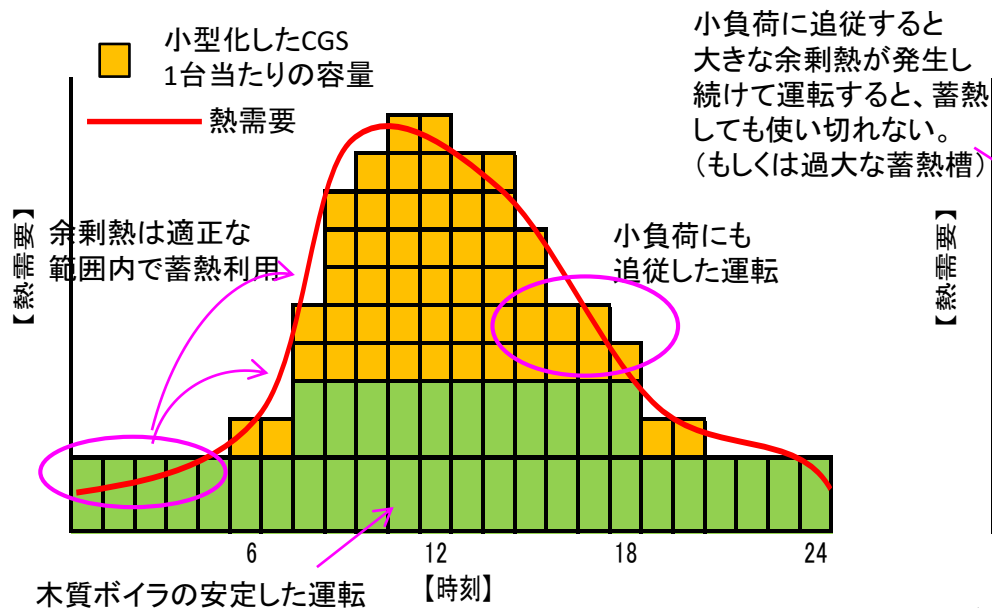
- ①. エネルギーセンターにおける収支改善
- ②. 計画想定時からのエネルギー温水需要の減少に対する対応
 - ・負荷追従を可能とするC G Sの台数分割と単機容量小型化、需給監視システムによる最適容量制御
 - ・木質バイオマスボイラの燃焼量調整制御
 - ・蓄熱槽の最適容量選定、蓄熱量調整制御等の導入
 - ・余剰エネルギーの削減とエネルギー購入原価の低減
- ③. 雪氷冷熱の経済的有効利用に対する対応
 - ・費用対効果を最大限に引き上げる雪氷冷熱の施設規模、利用量の最適化を検討する

課題対策資料：運転モデルイメージ

【見直しによる運転モデルイメージ】

木質バイオマスボイラの安定稼働をベースとし、
熱需要への負荷追従を主としたCGS運転を行う。

《参考》当初想定機器による運転イメージ



30年度の事業内容

1. エネルギー供給先及びエネルギー需要量の調査

2. エネルギー供給方式、供給ルートの検討

3. 導入設備、整備費用の検討

4. エネルギーマネジメントシステムの検討

5. エネルギー供給・管理会社の検討

6. 事業効果及び継続性・持続性の検討